

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月8日

【評価実施概要】

事業所番号	0972300479		
法人名	医療法人木水会		
事業所名	グループホーム八州苑		
所在地	栃木県下都賀郡藤岡町太田1386-1 (電話) 0282-61-1181		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年9月16日	評価確定日	平成20年10月8日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは県内で2番目に開設されたグループホームである。このため開設当初から見学や実習など県内外から数多く受け入れている。道路を挟んで同法人の老人保健施設、2ユニットのグループホーム、隣町にも2ユニットのグループホームがある。法人内に5ユニットのグループホームがあることから、ホーム長会議などで意見交換し、共に質の向上に努めている。比較的近いところに法人の医院もある。職員は明るく、また比較的自立度の高い入居者が多く、入居者と職員が一緒になって「手打ちうどん」をつくったり、畑で野菜を栽培したりと会話を楽しみながら楽しく生活できるよう支援している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回の課題であった運営推進会議への地域の方の参加について、地域民生委員、地域包括支援センター職員が参加することによって改善された。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	今回の自己評価は全職員に配布し、全職員が評価に取り組み、最終的に管理者がまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	入居者、地区民生委員、地域包括支援センター職員等が中心として2か月に1回開催され、ホームの活動状況を報告し、各委員から意見や助言をもらって運営に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	家族の訪問時に近況報告をするほか、家族に毎月「お便り」を送付している。預かり金は「こづかい帳」で管理し、家族が訪問した際に確認してもらっている。2か月に1回発行されている法人の広報誌には職員の異動等のページがあり、「お便り」に同封して報告している。面会や行事で家族が訪れた際に声をかけて気軽に意見や希望を話せるような雰囲気づくりに努めている。またホーム内に意見箱を設置しているが今まで苦情が寄せられたことはない。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
重点項目④	事業所の周りには民家がほとんどなく、隣近所との日常的な交流は難しい立地であるが、地元小学校の運動会や地域のお祭りに積極的に参加し、またホームの行事や納涼祭にはポスターを作成し、自動車にポスターを張り、町内を巡回して参加の呼びかけをして交流を図っている。自治会には法人として加入している。

【情報提供票より】 (平成20年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤7人, 常勤換算7人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,000 円	その他の経費(月額)	・理美容代—2,000円、 ・おむつ代—150円/1枚、 ・日用消耗品—150円/1日、 ・教養娯楽費—100円/1日、 ・光熱費—350円/1日、 ・電気代—50円/1日/1点	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,380 円	

(4) 利用者の概要(平成20年8月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	7 名		
要介護3	1 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 89.3 歳	最低	84 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小松原医院、石川歯科医院
---------	--------------

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の5項目の理念を掲げ、その他に「ゆっくり、たのしく、いっしょに」の行動指針を定めて、その実現を図るための実践に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念・行動指針等をホーム内に掲示し、朝夕の申し送り時や月1回のスタッフミーティング時に唱和し、職員間の共有を図っている。また法人で定めている介護十戒、話しかけ介護十則の中から、毎月1つのテーマを決めて理念とあわせて唱和している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所の周りには民家がほとんどなく、隣近所との日常的な交流は難しい立地であるが、地域の小学校の運動会や地域のお祭りに参加したり、ホームの行事や納涼祭に参加を呼びかけて交流を図っている。法人全体として自治会に加入している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価の課題であった運営推進会議の構成メンバーとして新たに地区民生委員・地域包括支援センター職員が加わり、改善が図られている。今回の自己評価は全職員に配布し、全職員が評価に取り組み、最終的に管理者がまとめた。	○	全職員で自己評価に取り組んでいることを更に活かすためにも、自己評価での各職員間の違い等の意見交換を行い、ホームの良いところや課題の共有を図りサービスの質の向上に活かしていくことにも期待したい。

グループホーム八州苑

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、民生委員、地域包括支援センター職員を中心として2ヵ月に1回開催し、ホームの活動状況を報告し、委員からの意見や助言をもらって運営に活かしている。	○	地域の理解や支援を更に得られるようになるための機会として、今後連携していきたいと考える機関に参加を呼びかけるなど構成メンバーや会議の持ち方などを更に検討していくことにも期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	開設以来、町との連携は図られており、担当者からの助言を得ながらサービスの質の向上に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、入居者一人ひとりの家族にお便りで入居者の健康状態や日々の暮らしぶりを写真を添付して細かく報告している。金銭管理については、家族が訪れた際に確認をしてもらっている。職員の異動については、「お便り」のほか、法人の広報誌を送付して報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や行事で家族が訪れた際に声をかけて気軽に意見や希望を話せるような雰囲気づくりに努めている。またホーム内に意見箱を設置しているが今まで苦情が寄せられたことはない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人としては職員のスキルアップや適性に応じた異動を考えているが、昨年度は退職1名、新設事業所への異動が2名であった。法人の行事の際やグループホーム間の交流を通して異動した職員と入居者との交流も続けられており、入居者のダメージを少なくする配慮がなされている。		

グループホーム八州苑

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には理念等を盛り込んだオリエンテーションシートを作成して研修に活かしている。ホームでの勉強会のほか、法人で2ヵ月に1回実施される職場内研修にも参加できるようになっている。外部研修を受講した際には報告書を作成し、定例のミーティングなどで伝達している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会に加入している。当ホームの他に隣地に2ユニット、隣町に2ユニットのホームがあり、合同のホーム長会議でそれぞれの課題について話し合うなどして質の向上に努めている。県内外から見学や実習を受け入れている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族の見学時に分かりやすく説明をし、相談に応じながら本人の意思を尊重する配慮をしている。入居間もない時期には積極的に声をかけたりして、入居者に不安を与えないよう、また徐々にホームの生活に慣れるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者のできることを的確に把握しながら、必要に応じてサポートしている。食後は多くの方が自分で食器を下げて洗う様子が見られた。年3~4回入居者と職員が一緒になって「手打ちうどん」をつくっている。郷土料理や畑仕事、裁縫など職員が入居者から教えてもらうことが多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から入居者一人ひとりの希望や意向を把握するよう努めている。意向の把握が困難な方については、家族から情報を得たり、入居者のしぐさや表情をうかがいながら意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者や介護支援専門員が本人や家族から十分にアセスメントをしており、サービス担当者会議において職員の意見や医師の助言を参考にして介護計画を作成している。介護計画は日々のケアの中で職員間の共有も図られている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月に1回、定期的にケアカンファレンスを開催して介護計画の見直しを行い、家族の同意を得ている。またモニタリング記録表ではホーム側の評価欄のほか、入居者・家族による評価欄があり、確認をしてもらうようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	今までのところ利用はないが短期利用共同生活介護の指定を受け、また医療連携体制加算の指定も受けている。隣接する老人保健施設での行事やバイキングに参加するなど、法人内他施設との連携もとられている。		

グループホーム八州苑

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームから比較的近いところに協力医療機関があり、職員が同行して2週間に1回の受診ができる体制になっている。協力医療機関以外のかかりつけ医で受診する場合には家族の対応になるが、受診前の状態の説明や受診後の結果を伺うなどして適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制加算の指定を受け、また看取りの指針を定めており、家族に説明をしている。老人保健施設が隣接しており、協力医療機関である法人の医院が比較的近くにあることから医療との連携体制ができています。	○	現在までに「看取り」の例はないが、終末期・看取り等について管理者及び職員は重要性を認識している。今後、本人や家族の希望や思いを繰り返し確認し、また医師や運営者と相談しながら話し合いを重ねていくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人の「介護十戒」「話しかけ介護十則」から毎月1項目を選んで朝夕の申し送り時に唱和するなど、入居者一人ひとりの誇りやプライバシーを守る姿勢が徹底されている。記録や情報が記載されている書類については持ち出し禁止にするなど個人情報保護も徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、日課は特に決めておらず、入居者一人ひとりの体調や天候に配慮しながら入居者のペースを尊重して支援している。		

グループホーム八州苑

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の管理栄養士が作成したものを参考にして入居者の好みに配慮しながら毎日の献立を考え、調理をしている。調理・準備・後片付け等は職員と一緒にしている。職員は1名と一緒に同じものを食べていた。	○	ホームの理念でもある「家庭的」という観点から、職員全員が入居者と一緒に同じものを食べることを前向きに検討することにも期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間は特に決めておらず、入居者の希望を聞き、見守りながら入浴の支援をしている。夕方5時ぐらいまでの午後の時間帯の入浴希望が多い。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除・調理・畑仕事・針仕事など本人のできることで、得意なことを踏まえて役割などの支援をしている。道路を挟んで反対側にある同法人の老人保健施設の敷地の一角に畑をつくり、野菜を植え、収穫したりと職員と一緒に楽しめるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には散歩に出掛けたり、レクリエーションを外で行ったりしている。日用品の買い物や外食の機会を月1~2回設けている。また近隣にドライブや外食に出掛けたりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム前に道路があり、交通事故や不審者が出たことがあるということで家族に了解を得た上で玄関に施錠している。外出の希望がある場合にはその都度、鍵を開けて対応している。天気の良い日はなるべく外に出るよう配慮している。	○	入居者の安全に配慮しつつ、玄関を施錠していても圧迫感のない暮らしを支援していくための環境づくりを大切にしながら、地域との連携や職員の見守りの仕方など鍵のないケアの実践に向けた検討を続けていくことに期待したい。

グループホーム八州苑

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人内の各施設と合同で年2回消防訓練・避難訓練を実施し、その他にホーム独自で年2回消防署の指導のもと訓練を実施している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量・水分摂取についてチェックし、記録している。栄養バランスやカロリーについては法人の管理栄養士のアドバイスを受けながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	設備や調度は家庭で使われているものが多く使われている。入居者が生けた花がテーブルなどに飾られ、壁には入居者の作品等が掲示されている。室内の明るさも適切に配慮され、気になる臭いや空気のよどみ等はなかった。食事時にはテレビを消して音楽を流していた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には以前自宅で使用した家具等が持ち込まれている。また、洋室に畳を敷いて布団を敷けるようにするなど、入居者が居心地良く過ごせるような居室づくりの配慮がなされている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。